

NPO法人 白川郷自然共生フォーラム会報誌

Symbiosis Letter 2024

[シンビオシス レター]

NPO設立
20周年
記念号



NPO法人 白川郷自然共生フォーラム 設立20周年

私ども特定非営利活動法人白川郷自然共生フォーラムは2004年10月に設立され、2024年10月に20周年を迎えることができました。これもひとえに会員の皆様のご賛同とご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

当フォーラムは、この20年「環境教育施設を広く一般の皆さまにご利用いただき、環境に配慮する心をお持ち帰りいただく」、「地域の発展に寄与する」、「ほかの環境団体との交流を深め、人材の育成を図る」、「周辺の自然環境の保全」という4つの目的をもって日々活動しております。

また、白川村、日本環境教育フォーラムをはじめとする諸団体、トヨタ自動車の3者が連携するという強みを生かしながら、地球環境を取り巻く課題に地道に対応してまいりました。

そして、この3者が連携する当フォーラムにおいて、3者間の重複する課題に社会に不可欠な自然体験が不足している現状に対して、法人の中心事業である環境教育施設『トヨタ白川郷自然学校』の運営において補完するべく取り組みこと、そしてそれが白川村で持続的に行われていくことが、コロナ禍を経験した今だからこそ、なお意欲的に活動しなければと感じる20年目でございます。

今後もより多くの皆さまに当フォーラムの事業をご理解いただき、さらには皆さまの行動・活動を深める契機となりますよう、職員一同より一層精進してまいります。

皆さまのご理解とご賛同、ご支援をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。



CONTENTS

- 03 三者鼎談
「これまでの活動を振り返り
共生フォーラムの未来を考える」
- 05 NPO法人 白川郷自然共生フォーラム
20年の歩み
- 09 事業の取り組み
自然学校運営
地域との共生
自然との共生
人材育成
会員様との活動
- 11 各関係団体様からのメッセージ
- 13 元職員の現在&メッセージ

日本有数の自然学校へ： 共生フォーラムの未来を考える

2024年、NPO法人として発足し20年が経ちました。この節目に際し、白川村村長、日本環境教育フォーラム会長をお招きし、当法人理事長との3者でフォーラムの20年を振り返り、共生フォーラムの未来についてお話をいただきました。



「日本一の自然学校」を目指してスタート

山田 今回はお時間いただきまして本当にありがとうございます。

当フォーラムができて20年になります。これまでを振り返りつつ未来への期待などをお聞かせいただければと思います。

岡島 ちょうど1997年のCOP3、京都議定書の頃くらいからかな、トヨタ自動車の本社で準備検討会が1年以上あって、白川村でも飲みながらみんながずいぶん話し合ったね。

成原 色々理想を語り合いましたね。いろんな話をしました。

岡島 トヨタで自然学校作りましょって、トータル3年くらいあったかな。こういうのを作ろうとか、ああいうのを作ろうとかって。

成原 当時の環境教育をここから発信



するんだ、なんてね。

田中 設立時に私は関わっていませんでしたが、皆さんとても意欲的に関わっていたようにですね。

山田 村での受け止め方はどのようなものでしたか？

成原 日本一の環境教育をここから発信するって、それはすごいことやし。これは

間違いなくできると。しかもバックはトヨタときている。これは絶対できる、と。それで村は全面協力することにした。

開校後のことになると、この施設だ

けを拠点にするんじゃないに、例えば大白山運営を受けてくれたりとか、白川の子供たちのふるさと学習であったりとか、いろんな部分でもすごく貢献してくれている。トヨタ白川郷自然学校が絡んでくれたことによって子供たちの財産にもなっている。そういう部分で、やっぱりこのフォーラムがあつてよかったなって思う。

田中 せっかくこんないいことやっているんだから、もっともっと広報できればいいと思っています。ここが不十分で申し訳ないです。

岡島 でも環境の敵だと言われていた自動車産業が、これは意味があるっていうことで、始めたんですよ。そしてやっぱりトヨタが動けば日本が動くんだよ。

国内にとどまらず 世界への発信が重要

成原 国内向けの環境教育は発信してらんだけど、日本を代表しての環境教育の発信の場になってるかっていうと、まだまだだな。

田中 今、新しいビジョンとミッションを掲げて取り組み始めたものの一つが、企業における環境教育の推進です。感度の高い企業などでもう一回やり直そうっていう動きが垣間見えます。でもこれま

では異なる研修にしたい。だから作り直しようという流れで着手してます。トヨタ自動車以外の企業も参画いただけるようになっていきます。

岡島 最近のトレンドとして、会社がそういう姿勢を出してるとに若者が来るんだってさ。だから企業はグリーンを看板に出さないとイケない。

若者はさ、自分の将来を考えるとやばいじゃない。今も気温が2度、3度上がって、4度上がったらどうなんだって考えるよね。若者はこれからあと50年生きてると2074年でしょ。2074年の環境で気温が4度上がってたら生きてらんないよ。そこに対して企業が利潤を上げて、税金を納めて、従業員豊かにして、そしてもう一つ、環境を守るっていうのを本気で入れないと、ダメだって思うんだな。

先日、イギリスの一流企業で若い社員が、自分の会社は環境教育に力を入れているから辞める、という人が増えていると聞いたんだよね。環境教育をしない会社は将来性がない、だから環境系に転職する、というらしい。だから、環境教育を会社でやるっていうことはこれからかなり大事なんじゃないかって、私もそう思うんだよね。

今回の研修プログラムを全業界共通みたいにして、そこから各業界がオプショナルとしてカスタマイズしていく、そして外国にも広げるそんなベースになるものを作り上げていきたいいな。

この先のさらなる発展に必要なものは

山田 この白川郷自然共生フォーラムのこの先20年を考えた時に、エールもしくは期待を一言お願いします。

田中 そこで言うと、今、トヨタ自動車社会貢献推進部が一生懸命やってくれてますけど、彼らにも頑張ってもらって、トヨタの中のプレゼンスがますます上がるといいな。もっともっとプレゼンスを上げたい。そして、まずは継続してほしい。続かないことには何も生まれません、そう思うので。

成原 白川村は、環境教育だけでもいいんだけど、そういうもので観光客も学んで帰れる、そういう拠点としてだんだん広がっていく、そんなことを期待したいな。そして学べる拠点になって欲しいと思う。

岡島 最初から掲げているのは「日本一の自然



学校」なので、日本を代表する自然学校になって、ここで国際シンポジウムをしたり、自然体験活動の普及に取り組んだり、プログラム開発をしたり。そういうものが半分、半分は実践の活動だという発想だね。それから村と自然学校がもっと深く手組んだ方がいいと思う。日本最先端のトヨタと、歴史の重みの深い白川郷が手を組んで、日本有数の自然学校にする。この山の中で、何百年も引き継がれてきたその知恵は、今、世界中で必要とされるんだよ。独特の文化も含めた自然学校で、人間と自然をトータルで勉強する学校だよな。

成原 そういう意味で、改めてもっともっと大胆に協力関係があってもいいんじゃないかと思う。期待しています。

田中 これからが楽しみです。引き続き皆さんよろしくお願ひします。ありがとうございました。



(聞き手) 当フォーラム常務理事
山田俊行

当フォーラム理事長
田中泰

日本環境教育フォーラム会長
岡島成行氏

白川村村長
成原茂氏

トヨタ白川郷自然学校とともに
我々も成長してまいりました

20年の歩み

2004

10月 NPO認証

白川村馬狩地区を中心とした環境教育センター（現トヨタ白川郷自然学校）設立計画から始まり、より地域や各関係団体等と活動の幅を広げるためNPO法人設立を目指し準備を進め、認証を取得。



2005

4月

トヨタ白川郷自然学校 開校「日本一美しい村に、日本一の自然学校を。」
：初代校長 稲本正氏

「星空と温泉にひたるエコリゾート」と銘打ち、自然学校という存在を広く認知いただき、1万人を超える宿泊者により村の宿泊者増にも寄与。白川村より「里山遊び塾」（文部科学省委託事業プログラム）を受託。

◎白川郷ユネスコ世界遺産（文化遺産）登録10周年



宿泊利用者数
11,400名

2007

トヨタ白川郷自然学校：2代目校長 西田真哉氏 就任
白川村より「放課後子どもプラン」受託
訪れるお客様だけでなく、地域の家庭や子どもたちとの関りも密接に。

2008

子どもだけの長期キャンプ「白川」結“っこキャンプ”をスタート

「星空と温泉と自然体験のエコツアー」とし、自然体験・エコツアーの浸透を図る。また長期キャンプへのチャレンジを開始。まずは5泊6日から。

◎東海北陸自動車道全線開通

東海北陸自動車道の全線開通により中部方面からのアクセスが向上。



宿泊利用者数
14,418名

2010

●旅行業を取得

「白川郷まるごと体験協議会」が設立され、事務局業務を開始

移動手段からの一貫したご提案のため旅行業を取得し、よりお客様のニーズに沿った提供を可能に。また地域のエコツアー発展のため協議会の事務局業務を引き受け。



宿泊利用者数
13,126名

2011

3月

◎東日本大震災発生

職員も復興支援のために現地へ。



6月

トヨタ白川郷自然学校宿泊利用者〈10万人達成〉

震災復興の中、ありがたくも10万人を達成。ささやかながらお祝い。

●環境省環境大臣賞 受賞

（トヨタ自動車「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」
企業の生物多様性保全等実践活動顕彰一般部門）



2012

トヨタ白川郷自然学校：3代目校長 浅野能昭氏 就任

●白川村から大白川野営場の指定管理を受託

豊かな自然の残る秘境エリアの魅力を広く発信し、環境を守りつつ地域の発展に貢献するため受託。



2013

トヨタ白川郷自然学校〈10周年記念式典〉

：4代目校長 山田俊行 就任

10周年を迎え、地域住民、関係団体、関係者など多くの方々と一緒に盛大に式典を実施。

これまでの感謝をお伝えし、これからの展望を分かち合った。またインバウンド客の増加などにより宿泊者も大幅に増え、さらに広く活動を知っていただくことができるようになった。



宿泊利用者数
16,595名

2015

◎3月：北陸新幹線が開通

20年 の 歩み



2016

●「こどもだけのキャンプ」田舎暮らし7日間キャンプ」実施

長期キャンプを6泊7日に拡大。
定員満員で実施されるニーズと子供たちの成長へ大いに寄与できる事を確信した。
また「白川GO！GO！キャンプ」会員制度を立ち上げ、
自然学校のこどもキャンプファンを増やすための仕組みをスタート。



2017

●白川村から大白川露天風呂の指定管理を受託

大白川地区全体の付加価値を高め、
国立公園の適正な利用のモデルになることを目指し、露天風呂管理業務を新規で受託。

2019

●こどもだけのキャンプ「合掌家屋2週間キャンプ」実施

長期キャンプをさらに2週間に拡大。
合掌家屋をベースに、仲間たちと白川郷ならではの暮らしを重ね、
白川郷に伝わる精神である互いに助け合う結(ゆい)の心にもふれるキャンプを作り上げた。



2020

4月 ●新型コロナウイルス感染症流行第1回まん延防止条例施行

4・5月……トヨタ白川郷自然学校 休校
休校中も職員はフィールドの整備などを行い、再開した時に
利用者の方々に思いっきり伸びと深呼吸をしてもらえるよう準備をした。
6月……トヨタ白川郷自然学校 再開



宿泊利用者数
7,910名



2021

●『SDGs担い手育成講座』をスタート

社会に参画する一歩手前の大学生等を対象にSDGsの物差しで、
白川村の自然・地域共生をリアルに体験してもらおうことを特徴としている。
SDGs目標達成への行動につなげるために、
実感・納得・本音を大切に作るカリキュラム構成になっている。



2023

●環境省保全活動部門 表彰

新型コロナウイルス感染症の5類感染症以降に伴い、
宿泊者数などが大幅に改善され、さらにインバウンドも回復傾向に。
コロナ禍を経て、自然体験活動の意義や重要性が見直されることになった。



宿泊利用者数
10,921名

2024

●こどもだけのキャンプ「ぶんなり森人キャンプ」実施

長期キャンプを1ヶ月に拡大。
仲間と様々な体験を通し成長していく子どもたちに自然体験の教育的効果を改めて実感。

◎1月…能登半島地震発生

元日に発生した能登半島地震では、
白川郷も大きな揺れとなったものの大きな被害は出ず。
復興支援の一助として、出荷先に困った農家さんの野菜を買い
トヨタ白川郷自然学校のレストランで提供した。



活動内容

ACTIVITIES DESCRIPTION

当フォーラムは設立以来、トヨタ白川郷自然学校の運営を中心に様々な事業を行ってまいりました。今後より多くの皆様に当フォーラム事業を知っていただき、賛同・ご支援をいただけるよう職員一同活動を実施してまいります。

環境教育施設 トヨタ白川郷自然学校の企画・運営



2005年の開校からトヨタ自動車の委託を受け運営。アクティビティ内容やイベント実施、宿泊プランまで一貫して主体的に提案・実施をしてまいりました。「環境教育施設を広く一般の皆様にと始まったトヨタ白川郷自然学校は、環境教育から社会貢献へと広がりを見せながら、2025年20周年の節目を迎えます。この節目にあたり新たなミッションを提案し、さらなる発展を目指します。

MISSION

- 現役世代のサステイナブル人材化を軸にしたESDの実践と普及
- すべての学びの基盤作りになる自然体験を最大限活用した次世代育成
- 白川村の自然および生活文化に敬意を持つツーリズムを推進し、関係人口を拡大
- 組織並びに職員が白川村の今と未来を支える一員となる



地域との共生



設立当初より白川村の委託を受け実施している子どもたちの学びや成長のための事業や、白川村の秘境大川エリアの指定管理事業受託など、白川村の人と自然の魅力を深め・発信するために取り組んでまいります。



自然との共生



トヨタ白川郷自然学校の森の整備・活用をはじめ、敷地内の小さな田んぼはビオトープとして活用しているほか、白川村の景勝地である大窪池の整備など実施しています。



大窪池整備活動については左記で紹介いたします。

他団体等との交流・人材育成



これまで、トヨタ白川郷自然学校での「インタープリタースキルアップセミナー」「自然体験活動リーダー養成キャンプ」「環境教育ミーティング中部」の開催などを通じ、関係諸団体との情報交換や人事交流を行ってまいりました。また韓国ソウル大学からのインター受け入れやJICA「アジア地域地元自然資源を活用するエコツーリズム展開のための研修」受け入れ（カンボジア担当）など国外からの研修受入、日中環境教育研修への参加・誘致など、国内外関係各所とも交流・意見交換をしてまいりました。



2018年からはNOTS（国際自然大学）と人事交流を実施し、双方の学びと成長に大きく寄与いたしました。コロナウィルス感染症の影響により人事交流は中断しておりますが、引き続き国内外を問わず人材育成を深める機会を創出していきます。

会員様との活動 大窪池を愛する会



2016年より、『大窪池を愛する会』と称し、会員様にボランティアでお手伝いいただき白川村にある景勝地・大窪池の整備を行っております。雪崩を原因とする倒木の撤去や、藪の除伐を行うことで、大窪池本来の景観を会員の皆様と一緒に取り戻してきました。毎回ご参加いただく熱心な会員様も多く、また現理事長の田中も参加し、会員様と交流を持ちながら一緒に汗を流しております。

今後も人々の憩いの場として更に活用されるように、会員様のお力を借りながら、継続した維持管理活動を行っていかれたら、と思っております。



MESSAGE

from Related Organizations

各関係団体様よりメッセージをいただきました。
これからも地球環境への危惧やこれからの若者・子供たちへの期待などで
同じ目的を共有する仲間として、諸団体様の経験や知識に基づいたご助言をいただきながら、
一緒に各事業に取り組み組織として成長していきたいと思いを。

[50音順]



自然体験活動推進協議会

代表理事
佐藤初雄様

設立20周年おめでとうござい
ます。時が流れるのは本当にあ
つという間ですね。この間、世の
中は激変の歴史を残してしま
した。震災や災害、コロナに、地
球の裏側では大きな戦争勃発
としかしながら、こうした世の
中だからこそ今一度原点に立ち
返り、地球環境や世界平和を考
えるべき時に来ています。こう
した難題の解決のために少しで
も貢献できる自然学校になっ
てもらえるよう更なる発展と活
躍を期待しています。
職員・スタッフの皆さん本当
にご苦労様です。これかも大変
だとは思いますが他の誰かがで
きることはありません。皆さ
んしかできません。どうか誇り
と責任をもって頑張ってください。
大いに期待しています。

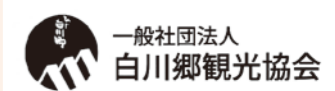
フォーラム開設当初青少年
教育関係者は自然が先生とし
て自然体験に高い教育効果が
あるという理念の基、推進活動
が盛んで、黎明期は過ぎたもの
の成果効果にはまだ開拓の余
地を残しておりました。そんな
折、トヨタが社会貢献事業の一
環にこのフォーラムをナシヨナ
ルレベルでその拠点への助成を
開始されたことは私達にとって
大いなる勇気を得る機会とな
りました。

開所から早20年。敷地にトン
ネル工事残土として積まれてい
た瓦礫の山も今では表面の自
然は甦り、此処で繰り広げられ
る様々な事業体験者の感動の
歴史が人を育てフォーラムの理
念に叶ったものとして成長しつ
つあります。20周年を節目に新
たなビジョンを掲げ先駆的な拠
点としてのお役目を期待致して
おります。誠におめでとうござ
います。



持続可能な開発のための教育推進会議

相談役
重政子様



白川郷観光協会

会長
西村浩昭様



NPO法人白川郷自然共生
フォーラムの設立20周年誠に
おめでとうございませう。
様々なプログラムを通し、四
季折々の白川郷の自然の魅力
を国内外の人々に伝
えていること
をはじめ、
馬狩地区
の保全活動、
白川村の子供たち
への積極的なアプローチなど多
岐にわたる取り組みには感謝
と敬意を表する次第です。
今後とも、人と白川郷の自然
を繋ぐ架け橋であり続けてくれ
ることを期待しております。
NPO法人白川郷自然共生フ
ォーラムの益々のご発展、ご健
勝を祈念し、お祝いのご挨拶と
させていただきます。



この度は設立20周年誠に
おめでとうございませう。この節目
として貴法人の功績を思い、革
新的な取り組みに改めて感服
いたします。
景観保全の取り組みとして
特定外来生物オオゴンゴソウ
の除去作業を我が守る会で行
つていますが、その時にたくさん
のお力添えをいただき誠にあり
がとうございました。
これからも自然を守る者同
士手を取りあって進んでいくこ
とを願います。今後のさらなる
発展を心よりお祈り申し上げ
ます。



白川郷荻町の自然環境を守る会

会長
野谷信二様



白川郷自然
共生フォーラ
ム設立20周年
誠に
おめでとうございませう。
自然を教育のメソッドとして
活動を進めることを共通項と
して持つ団体として、貴法人の
運営に参画させていただいて
いることに改めて感謝申し上げ
ます。
デジタル化が進む社会におい
て自然との共生は、人間本来の
姿を確かにし、人生を豊かにす
るために必要不可欠なもので
あると考えます。特に青少年教育
の分野では自然体験活動は必
要不可欠であり、さらに協力を
進めてまいりたいと考えており
ます。今後ますますの貴法人の
ご発展を心よりお祈り申し上
げます。



公益社団法人 日本環境教育フォーラム

理事長
阿部 治様

フォーラム設立20周年おめで
とうございます。自然体験拠点
が果たす重要な役割を、20年前
に見通されていた設立メンバー
みなさまの慧眼に心より敬服
いたします。
また、世界約200カ国の政
治リーダーが2030年ネイ
チャーポジティブII長年にわた
る生物多様性減少傾向を反転
させ自然を回復軌道に乗せる
目標に合意した今、人と自然の
関係性を見直すことが広く社
会に求められています。
自然を直接五感で体験でき
る拠点であるフォ
ーラムが果たす役
割は、より重要な
社会的意義を持つ
と強く期待して
います。



世界自然保護基金ジャパン

事務局長
東梅貞義様

私どもJ.E.E.Fは、1987
年に山梨県清里で開催された
清里環境教育ミーティングが始
まりです。このミーティングでつ
くられた環境教育ネットワーク
と当初5年間の成果としてま
とめられた『日本型環境教育の
提案』などを元に全力で貴自然
学校の設立を応援し、その後も
協働で様々な取り組みを推進
してきました。
貴自然学校は日本を代表す
る自然学校であり、プログラム
は勿論、指導者養成や職員の労
働環境などあらゆる面で日本
の自然学校を牽引していく存在
として、同時に気候変動や生物
多様性など時代を切り開く先
進的な活動を大いに期待して
います。



公益財団法人日本野鳥の会

参与
大畑孝二様



白川郷自然共生フォーラム
20周年おめでとうございませう。
当会は、1981年に北海道
苫小牧市にウトナイ湖サンク
チュアリを開設し、環境教育の拠
点づくりを提唱しました。その
後、全国に様々な形態の自然教
育施設ができ、白川郷自然学校
は、その中でも大いに期待を寄
せるものであり、着実に歩ん
でこられたものと敬意を表しま
す。
今後世界的な潮流である
生物多様性保全に寄与する自
然学校であることを期待し、ま
すますの発展をご祈念申し上
げます。



特定非営利活動法人 日本ロングトレイル協会

代表理事
中村 達様

自然体験の基本は歩くこと
である。日本は山の国でもあり、
白川郷自然学校は有数の山岳
地に位置している。いま山々を
歩いて旅するアウトドアは、
ルールツーリズムと共に世界
のトレンドである。
私たちが提唱している
JAPAN TRAILは沖縄
県の辺戸岬を起終点として、北
海道の知床半島に至るおよそ
1万km。JAPAN TRAIL
は白山を越えて大白山を経由
し、白川郷をトレースしている。
白川郷自然学校は歩くという
原点に立ち、ベースキャンプとし
ての活用が期待される。
japantrail.jp/



公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟

事務局長
大久保秀人様

この度は設立20周年誠に
おめでとうございませう。この節目
として貴法人の功績を思い、革
新的な取り組みに改めて感服
いたします。
景観保全の取り組みとして
特定外来生物オオゴンゴソウ
の除去作業を我が守る会で行
つていますが、その時にたくさん
のお力添えをいただき誠にあり
がとうございました。
これからも自然を守る者同
士手を取りあって進んでいくこ
とを願います。今後のさらなる
発展を心よりお祈り申し上げ
ます。



MESSAGE

from Next Leaders



当法人で様々な経験を積み、次のステップへと踏み出し活躍している多くの仲間がいます。
当時の思い出と、現在のお仕事についてメッセージをいただきました。

[順不同]

合同会社いきものオフィス風

代表 / 石原雅貴

私は2014年の入社から数えて、満10年間お世話になりました。在職中は主に、白川郷の豊かな自然の中で生活している生物達をテーマに、自然体験プログラムの企画などを担当させていただきました。退職後も関わらせていただいている白川GO!GO!キャンプは、白川郷での生活を象徴するプログラムで、休日にフィールドで得られた興味深い体験を基に企画を練り、子ども達と思う存分探求を楽しむという、公私ともに豊かな時間を過ごさせていただいた10年間でした。

現在は、故郷の山梨県に拠点を置き、生物を対象とした環境調査や、ネイチャーガイドを行っています。在職中に得たスキルと経験値を活かして、地元の人々の営みを守る一助になっていきたいと思っています。



野外博物館 合掌造り民家園

加藤春喜

NPOには2004年の自然学校の開校準備から2020年までの16年間お世話になりました。

現在は村内の野外博物館で働いていますが、雪国暮らしが初めてだった私も、今では冬はもっぱら合掌造りの屋根の雪下ろしに励んでいます。今でも村の方々から教わることばかりですが、NPOでの経験が役立つことも。在職中のツキノワグマ調査で半径10~20kmの広大な行動圏をもつ個体がいることや、それぞれお気に入りの場所があり、時季によっては人里近くでも滞在することなどがわかりました。それらの知見は今の職場の安全対策に反映しています。ちなみに、岐阜県内のクマの出没状況を地図上に可視化しWebに公開しているクママップは、2005年にNPOが開設し、翌年から岐阜県に引き継がれて今に至ります。これからもNPOならではの自然との共生の取り組みに期待しています!



白川郷アクティビティーセンターo8

主宰 / 蟻原陽一

私自身は2005年に開校メンバーとして入社し、事務局員として一年、その後四年間をインタープリターとして、合計約5年間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。その間、生まれ育った白川郷の奥深い自然にたくさん入り、自然学校を訪れてくださる多くの方々とお会いする機会が、私にたくさん学びと気づきをもたらしてくれました。

現在は、白川郷の生活文化を作り上げた「豊かで厳しい自然」を更に多くの方々に体感していただきたく、国内外の方々に登山やSUPなどのアウトドアアクティビティを提供しております。白川郷という同じフィールドで活動する同志として、今後ともご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。

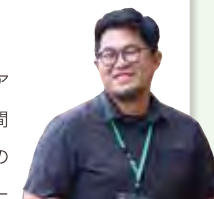


国際自然環境アウトドア専門学校

佐藤翔太郎

現在は新潟県妙高市にある国際自然環境アウトドア専門学校にて勤務しております。年間3000名ほどの専門学校生や大学生、企業のビジネスパーソンを対象に、ファシリテーターとしてアウトドア環境での研修を提供しています。当校のこれまでの自然を活用した教育実践のノウハウを活かし、人材開発および組織開発に関する様々な課題に誰でも参加できる「半」アウトドア研修環境でアプローチしています。

新卒で白川郷自然共生フォーラムに入職し、退職までの8年間、トヨタ白川郷自然学校の企画営業部に在籍していました。主に、自然体験プログラムの企画運営や社会教育事業などの業務に携わり、水の流れるようなプログラムデザインを意識することや地に足のついた学びを提供するなど、自然学校で学んだことは今でも私の大切な財産です。



ペンション黒姫高原ふふはり亭

土屋達郎 / 仁美

私は4年間自然学校に在籍し、インタープリターとして働きました。私はどうしても南極に行きたかったので、自然学校を4年で退職し、第58回日本南極地域観測隊に参加。日本に帰ってきてからは、同じく自然学校で12年働いた妻も退職し、2人で長野県黒姫の地に中古のペンションを購入。2019年4月にペンション黒姫高原ふふはり亭をオープンしました。

また2020年からは環境省のアクティブレンジャーとして、妙高戸隠連山国立公園の保全・管理の仕事にも携わっています。一般のお客様をはじめ、トヨタ学園の学生さんたちなどの企業研修、台湾をはじめとする海外のお客様など、多様なお客様をガイドしました。様々な状況でのガイド経験は今でも大変役立っています。またシャワーライミング、スノースライダー、Eポート等の新たなプログラム開発にも携われたのも楽しい思い出ですね。あとイワナつかみも楽しかったなあ。おかげでイワナを捌けるようになったし。自然学校の更なる発展を長野の地から応援しています。



登山ガイド(茜空)

西岡弘恭

在職中は、トヨタ白川郷自然学校でのアクティビティの企画、運営が主な業務でした。また、「大窪池を愛する会」には、2年目から、作業担当者として携わってきました。そんな様々な業務の中で、新規の川遊びが中心となることもキャンプの企画、運営に携わったことが一番心に残っています。初めての主担当で、たくさんの苦労もありましたが、先輩方の援助もあり、参加した子ども達の笑顔が見られたときは本当に嬉しかったです。

現在は、長野県佐久市を拠点に、登山ガイドとして活動しています。お客様の安全管理や、自然解説など活動内容は、これまでとほとんど変わりません。エリアとしては、北アルプス、南アルプス、八ヶ岳など、長野県の山を中心に案内しています。もちろん、在職時に関わりの深かった白山のガイドも行っています。



フォトグラファー・登山ガイド

田口幸弘



「StudioMOSO」という屋号で、主にカメラを軸とした個人事業を行っています。飛騨地域を中心に、中小企業向け取材写真撮影をはじめ、保育施設の行事撮影や、登山撮影ガイド、ドローン空撮業務などのサービスを行っています。

NPO法人在籍時は、営業企画部に広報業務や商品企画に長く携わりました。大窪池で広報用ドローンを撮影中に大型の猛禽類に狙われ、大破させてしまったのは苦い思い出です。その後、インタープリター部署に配属になり、自然体験プログラムの現場に入りました。大自然の中で「お客様にとって最高の体験は何なのか」を試行錯誤した日々で得た学びは、今の自分の活動においてかけがえのない財産となっています。



エコニコ・ファシリテーション事務所

代表 / 小林昭広



自然学校での時間は私にとって念願の仕事であり、熱い心で取り組んでいました。営業や企画は未経験でしたが、上司や先輩方に支えられ成長しました。自然学校や白川の「自然」、そして職員、村民の皆さまなど「人」にも支えられました。

7年前、妻の出身地である長野県松川町のDMO立ち上げや松川青年の家のリニューアル業務に関わりました。自然資源を活用した観光まちづくりや自然体験事業を担当し、2年前に個人事業を始め、現在は自然体験の企画運営やサイクルツーリズム、大学での非常勤講師なども行っています。



彼らの他にも、設立されてから20周年多くの仲間がここで学び、全国各地で活躍しています。

これからも、たくさんの仲間と切磋琢磨しながら成長してまいります。





この原体験が
あなたの歩みを
ひと押しする
力になると
信じています



●NPO法人 白川郷自然共生フォーラムは、トヨタ白川郷自然学校の運営ならびに地域の自然保全活動などに取り組んでいます。会員(法人・個人)は随時募集しています。

●会員になられた方には(宿泊費・イベント参加費の割引)や(会報の送付)などの特典があります。会員登録方法については下記へお気軽にお問い合わせください。

車でのアクセス

●東名高速・名神高速一宮JCT→東北自動車道(2時間)→白川郷IC→国道156号線から白山白川郷ホワイトロード方面(10分)→トヨタ白川郷自然学校

●北陸自動車道小矢部砺波JCT→東北自動車道(40分)→白川郷IC→国道156号線から白山白川郷ホワイトロード方面(10分)→トヨタ白川郷自然学校

発行者

NPO法人 白川郷自然共生フォーラム
Forum for Environmental Symbiosis in Shirakawa-go

〒501-5620 岐阜県大野郡白川村馬狩223(トヨタ白川郷自然学校内)

TEL.05769-6-1185 FAX.05769-6-1287 Mail. info@f-ess.com HP. <https://f-ess.jp>